

郷土資料館だより

「郷土資料館だより 夏」を発行します。企画展をはじめとする展示情報から、講座や学校での出前授業など資料館活動の一部を紹介します。ぜひご覧ください。

企画展情報

特集展示・秋季企画展情報

特集展示②

「山城が語る戦国高浜」

会期：4月6日
～9月29日

会場：郷土資料館
第1展示室

戦国時代に起こった高浜を舞台とする合戦と山城の関係をパネルで紹介しています。
解説冊子も無料配布中。



秋季企画展

「祈りをつむぐ仏たち

－高浜の信仰と美術－

会期：10月18日
～11月23日

会場：郷土資料館2階多目的ホール

高浜の各地区で守られてきた仏像、馬頭観音像を紹介します。



木造 大日如来坐像（小和田区蔵）

大学との博学連携事業

菌部民具館再生プロジェクト

令和8年度から菌部の民具館では、瓜生山学園京都芸術大学の大学院生15名が民具の調査・修復を進めています。歴史・文化財修復を専門とする院生の視点により、高浜の民具の価値が改めて見いだされています。

調査成果は年末に展覧会として公開する予定です。学術的な調査を通じて民具の基礎情報が整理され、来年度以降はワークショップなどを通じて、地域のみなさと民具の保存・活用を考える取り組みへと広がっていきます。



菌部民具館

出前講座

西の鯖街道を未来につなぐ

木簡からわかる青郷の歴史

かつて青郷は、平城京や京都へ海産物を運ぶ重要な役割を担っていました。

青郷小学校と青郷公民館では、この「西の鯖街道」に注目した学習が進められています。

郷土資料館では、奈良で出土した木簡に記された「青里」や「多比鮓（鯛鮓）」を手がかりに、青郷と都とのつながりを紹介する歴史講座を実施しました。講座では食物クイズや木簡づくりを通して、古代の青郷の姿への理解を深めました。

現代ではあまり意識されない古道に光を当て、道から高浜の歴史を学ぶ青郷小学校・青郷公民館の取り組みに、ぜひご注目ください。



「木簡について学ぼう」 in 青郷小学校

講演会情報

馬居寺馬頭観音坐像御開帳記念講演会

講 師：片山寛明氏（MIHOミュージアム特任学芸員）

日 時：10月3日（土）／13:30~15:00

場 所：高浜公民館 2階多目的ホール

定 員：60名（先着順・予約不要）

参加費：無料

今年は、馬居寺に伝わる馬頭観音坐像の御開帳の年にあたります。郷土資料館ではこれを機に、馬頭観音像の研究で知られるMIHOミュージアム特任学芸員・片山寛明氏をお招きし、馬頭観音像についてご講演いただく場を設けました。

本講演を通じて馬頭観音像への理解を深めていただき、貴重な馬頭観音坐像の御開帳をより意義深くお迎えいただければ幸いです。



馬居寺・馬頭観音坐像

学芸員のひとり言



武邊咄聞書（館蔵）

令和八年度夏季企画展のテーマは「澤村大学助吉重」です。澤村大学助は高浜から丹後、さらに熊本へと移り、江戸時代まで活躍した武将です。鎧姿の肖像画を残すなど、武士としての矜持を強く持ち続けた人物として知られています。

今回は、その大学助が登場する史料「武邊咄聞書（ぶへんばなしききがき）」を紹介します。この書物は、江戸時代にまとめられた武士・武将の逸話集で、戦国時代から江戸初期にかけて活躍した諸武将の事績が、断片的な「咄（はなし）」として記録されています。

その中に、澤村大学助の小牧・長久手の戦いで活躍が記されています。豊臣方として参戦した大学助の奮戦ぶりを家康が目当たりし、大学助が用いていた朱塗りの槍を「持槍」として特別に認め、他の者の使用を禁じたという逸話です。

大学助は九十一歳で没するまで戦場に立ち続けました。信長・秀吉・家康という天下の三英傑に仕え、後に幕末まで続く家の礎を築いた人物です。その武勇と生きざまは、江戸時代に入っても広く語り継がれていました。

高浜出身の武将が江戸時代になって、味深いですね。も広く民衆の中で親しまれたことは興

情報提供のお願い

古いものを探しています！



ご家庭や倉庫に眠る古い道具・写真・文書などがありましたら、郷土資料館までお知らせください。「価値があるか分からない」というものでも構いません。町の歴史を未来へつなぐため、皆さまの情報提供をお待ちしています。

会員募集中



若狭たかはま古文書会活動中

毎月第4土曜日に高浜の古文書を読み進める勉強会を開催しています。初心者の方でも参加可能です。どうぞお気軽にご参加ください。

場所：高浜町役場第1会議室もしくは郷土資料館

時間：10時～11時（毎月第4土曜日）

参加希望の方は郷土資料館までご連絡ください。